

# 音楽療法で交流促進

Leaf音楽療法センター

障害者施設で実践

Leaf音楽療法センター（東京都新宿区）は、障害者支援施設の新橋はつらつ太陽（同中央区）の利用者と入所者を対象に音楽療法を実践している。歌や踊りに加え15種類の楽器を使用するほか、コミュニケーション促進を狙い、体の触れ合いを重視したプログラムとなっている。



鈴木佑梨氏

## 楽器使用し 自分を表現

参加者は毎回10名ほど。高齢者の場合と違い、少人数で取り組むことが

障害者を対象とした音楽療法の特徴だという。新橋はつらつ太陽では、知的障害を持つ20代〜60代11名が参加。音楽療法の鈴木佑梨氏によるオリジナルソングから始まり、ピアノ伴奏に合わせた合唱や利用者同士で曲に合わせハイタッチしたり、自由に楽器を選

んでもらい合奏するプログラムが組み込まれている。

「ボディタッチは他者の繋がりを意識しコミュニケーションを図る目的があります。鈴や鳴子など15種類ある楽器から好きなものを選択し演奏してもらうことで、選択や意思決定に繋がります。



▲大鼓を手で触り、感触を楽しむ

が、音楽療法の時間があることで職員へのレスパイト機能も果たす。

「音楽療法をこちらの施設で始めた当初と比べ、今では体の動作を増やしたプログラムに変更しました。プログラム開始以降、参加者同士の関わりが増え、また過干渉の行動があった参加者の状態も落ち着いてきたという報告も受けています。参加者の表情も豊かになり、効果は得られていると思います」（鈴木氏）

す。楽器演奏や歌を歌うことで、これらの意識をもち出します」（鈴木氏）また、希望者には参加者の前で歌う時間も用意し、選択制で、自己表現を促進していく。プログラムの1番の目的はコミュニケーションの促進だ

「今後、利用者同士の自発的な交流を促進していきたい」と抱負を語る。

## 催

催

介護に携わる人が思いを語り、情報共有し合うコミュニティを形成する場を提供する「未来をつくるkaiごカフェ」

主催するkaiごカフェの主催する「今回は前々日、都内で開催される。NPO法人日本障害者協議会（東京都新宿区）主催の「JDサマースクール2014」が今月29